

東洋紡株式会社 2025 年度 第 3 四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時：2026 年 2 月 10 日（火） 10:00～10:50

場所：東洋紡(株)本社（オンライン開催）

説明者：執行役員 CFO 管理部門統括 斧 泰三

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：第 2 四半期決算に引き続き、上方修正となったが、計画に比べて何が良かったのか？

A：「コスモシャイン SRF（以下、SRF）」がフル生産により高い生産効率を維持していることに加え、MLCC 向け製品の販売が増加したことや、包装用フィルムの価格改定効果が収益の改善に寄与した。また、試作経費の削減も進んだことにより、計画を上回る見込みとなった。

Q：フィルムは、3Q に比較して 4Q が大幅な減益になる要因は何か？

A：4Q の減益要因としては、包装用フィルムが市場の荷動きの悪化に伴い販売数量が減少する見通しであり、それに合わせて生産調整を行うことによる。また工業用フィルムについては、SRF の改造工事に伴う費用増加に加え、改造機台の停台期間中において 工業用フィルムの販売数量が減少することを見込んでいる。

Q：SRF の改造工事について、どのような状況か？

A：SRF の生産能力増強の工事は、既存ラインの改造であり、計画通り進められる見通し。需要も堅調であり、26 年度中に増産体制を整えていく。これにより、最大で 3 メートル幅の生産が可能となり、ディスプレイのさらなる大型化ニーズに対応していく。

Q：ライフサイエンスは、バイオの生産性低下の改善が遅れているように見えるが、要因は何か？

A：原料の不作に伴う原料高および収率低下に加え、生産トラブルが重なった。これらにより、生産性が低下したが、生産性向上対策の効果が出てきており、高コスト原料の使用が一巡することで、収益の回復を見込んでいる。

Q：環境・機能材は、3Q に比較して 4Q が増益になる要因は何か？

A：エンジニアリングプラスチックは、海外での自動車用途の販売が増える。また、環境ソリューションは、EV 市場減速の影響により、LIBS*製造工程で使用する VOC 回収装置の出荷が減少しているが、エレメントの交換需要に加え、半導体工場向け装置の販売を伸ばしていく。* リチウムイオン電池セパレータ

Q：今回の上方修正では、最終利益が伸びている。今後の株主還元に対する考え方は？

A：安定的な配当を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案のうえ、総還元性向 30%を目安として、株主還元を行っていく方針である。

以上